

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度 総合	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等			
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。 ぐんまコミュニティー・ハイスクール事業に沿った活動を行っていますか。	①自分の学校が好きだと感じている生徒の割合が、80%以上である。	・あっとほーむ長野原の具現化。生徒のニーズを吸い上げ、満足度の高い学校生活を送れる環境を整える。	A	A	A	少人数の取り組みによる効果、それと関連して教員との距離感が近く、親身になって話を聞いてもらえることが、学校に対する高評価につながっている。悩みアンケート等も利用しながら、引き続き生徒に寄り添った教育活動をおこなってきたい。	「学びの充実・アットホーム長野原・GCH事業の充実」の3本柱が授業に結びついていると感じた。 体験的行事で様々な経験を積むことができて良い。生徒の興味を引き出すことで飽きさせずスキルアップできる形で取り組んでおり、とても良いと思う。 地域の題材を生かした大型紙芝居はとても価値のあるもの。今後も継続して良い作品を作ってほしい。
		②学校行事や生徒会行事（Nフェス、ハッ場ワーク等）に満足している生徒が90%以上である。	・生徒の主体性が発揮され、満足感・充実感の得られる形の行事を実践する。	A	A	A	学校行事や生徒会活動を通して、クラスや学年を超えて、学校全体としての活動をし、成果を挙げ、長高生としての一体感を体験できたことが、満足感につながっている。学校生活をさらに充実させるためには、そうした諸行事を精選していくことも検討が必要になってくる。	
		③ぐんまコミュニティー・ハイスクール事業（花いっぱい運動、地域探究活動、読み聞かせ会等）に積極的に参加していると感じている生徒が80%以上である。	・ぐんまコミュニティー・ハイスクール事業や総合的な探究の時間を中心とした活動において地域を理解し、主体的に地域に関わる取り組みができるように支援する。	B	B	B	ボランティア活動や地域学習などによって、地域との様々な連携をおこない、地元へ貢献する活動をしてきた。いろいろな場面で本校に対する地域の期待の大きさが伝えられている。活躍している生徒は多大な貢献をしているが、その活躍が生徒主体で他の生徒へと伝わり、さらに学校全体としての取り組みになることを目指していきたい。	
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	④授業はていねいでわかりやすいと実感できる生徒が90%以上である。	・定期的な研修の実施と教員相互での授業評価や生徒の授業アンケートを授業改善に生かす。 ・生徒の学力に応じた丁寧できめ細かな指導を実践する。	B	A	B	ていねいでわかりやすい授業を継続するために、授業の目標・評価規準をより明確に示し、生徒の学力に応じて、復習につなげられるよう教材・資料・課題やその示し方を改善し、学力の定着につなげていきたい。	授業形態や内容も工夫が見られ、あっとほーむな雰囲気でも生き生きと生徒が取り組んでいる様子を見ることができた。少人数指導では、個々の生徒と向き合いながら良い形で行われている。ただ、生徒減の状況については危機的な状況を感じている。 学習の成果を出すには時間がかかる。指導には根気があるが、粘り強く取り組むしか方法はない。
		⑤少人数指導や習熟度別学習、学び直しに、生徒の90%以上が満足している。	・学習形態に満足している生徒が多く、継続して双方向的な授業を心がける。	A	A	A	学習形態においては満足している生徒が多い。一つひとつのステップアップでわかる喜びを感じている生徒が多い。引き続き、生徒と教員の双方向的な授業に取り組んでいきたい。	
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑥学力が着実についていると、生徒の90%以上が実感している。	・生徒の能力や希望に応じた、きめ細かな個別指導（課題や補習）の充実を図る。	C	C	C	学習の定着に課題が残る。「わかったつもり」の生徒が多く見受けられるので、自己を振り返ることのできる授業をしたい。教科だけではなく、学校全体の取り組みとして改善し、個別最適な指導が充実させられるようにしていきたい。	
		⑦到達度テストと振り返り週間が自己の学習課題の発見と学力向上のためのよいきっかけになっていると感じている生徒が80%以上である。	・到達度テストを活用し、生徒一人ひとりに応じた課題を設定し、振り返り期間での課題解決を図る。	C	C	C	良いきっかけになったと回答している生徒は多いが、実際にその結果を活用し、自己を向上させようとしている生徒は多くない。次年度は進路指導部から提案した他のツールの有効な活用を進めたい。	
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑧職員会議・学年会議・生徒指導部会議・教育相談部会議において、生徒に関する情報交換を月に2回以上おこなう。	・各会議の情報交換から情報共有を図り、組織的な指導・援助につなげる。	B	A	B	毎週定期的に会議をおこなうことで生徒の情報共有ができた。密な情報共有により生徒に対しての細かな指導・援助に繋げることができた。	町内では、あいさつがしっかりとできていて、あいさつできない生徒もいると思うが、そのような生徒は、自己肯定感が低いと思う。特色を生かした様々な経験を積み、自信をつけさせてほしい。 思い通りにならない生徒もいると思うが、お互いの信頼関係を築いて、校則変更等をおこない生徒を大事に育ててほしい。 通学路の安全確保や不審者対策など、今後も先生方の支援をできるだけしていきたい。
		⑨いじめ防止や早期発見に向けた取り組みを積極的に取り組んでいると認識している生徒が80%以上である。	・職員研修の定期的な実施、生徒への声かけ・面談・アンケートを実施し未然防止に努める。 ・生徒会を中心としたいじめ防止啓発活動を実践する。	B	A	B	生徒や保護者が職員に相談しやすい環境ができていて満足している声も聞かれる。引き続き、生徒の観察、声掛けを充実させいじめの未然防止、早期発見・対応に努めたい。また、生徒を中心としたいじめ防止啓発活動の実践がなかなかできなかつたので計画的に実践していきたい。	
	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑩悩みや相談事に先生方はすぐに対応してくれていると答えている生徒が90%以上である。 ⑪校則に準じた「身なり」をし、大きな声で「あいさつ」でき、「ルール・マナー」を守る生徒が80%以上である。	・生徒の小さな変化を見逃さず、相談は時間を惜しまず真剣に対応する。 ・生徒の悩みや相談事に迅速に対応するため、相談申込フォームを設置する。 ・生徒が主体的に学校生活を送れる環境づくりの支援を行い、問題を自分事として改善できる生活指導スタイルを考え実践していく。	B	B	B	スクールカウンセラーや教育相談アドバイザーの活用など、教育相談部を中心にきめ細やかで丁寧な対応をおこなっている。日々の生活の中で生徒が相談しやすい環境をつくるため様々な工夫をして、きめ細やかな対応をおこなっている。また、多くの先生方と情報の共有を行い対応している。	
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑫3年間を見通した進路指導を行い、その指導を理解している保護者・生徒が90%以上である。	・3年間の進路計画を明確にし、各学年での段階的な指導と、家庭との連絡を密にして生徒個々に応じた指導をおこなう。	A	A	A	生徒・保護者のアンケート結果からも、達成できていると判断できる。次年度も同様の方策を継続したい。	今年度導入した「先輩に聞こう」はとても良い取り組みである。社会経験を4～5年積み、苦難や悩みを克服してきた社会人に来てもらって良いと思う。講話や体験学習をさらに充実させてほしい。
		8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑬自己の進路実現に向け、学習や部活動、面接指導、資格取得、インターシップ等に積極的に取り組んでいる生徒が、90%以上である。	・学年に応じて効果的な行事を実施する。また事前・事後学習を充実させ進路意識の向上を図る。	B	A	B	
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭・地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑭本校ホームページで本校の取り組みや生徒の活動の様子を知ることができ、満足している保護者が80%以上である。	・ホームページの内容を充実させる。特色的な行事や、活動の様子がわかる内容をブログ形式で数多く発信する。また保護者サイトを充実させ、学校での生徒の様子が伝わるようにする。	B	A	A	学校の様子がわかるようなホームページを作って行きたい。一部の職員が学校の様子をアップするのではなく、職員全体で委員会活動や教科活動などの様子を発信する。	多くの町民から応援してくれているというエピソードを聞いている。生徒と町民が自然と触れ合っている様子を耳にしている。
		⑮学校の教育活動を理解してもらうために、地域の住民や保護者が生徒と一緒に活動できる行事を企画し、交流の機会を設けている。	・ぐんまコミュニティーハイスクール事業やPTA活動に関わる行事参加を地域住民や保護者に促し、お互いに学び合いができる環境を提供する。	B	B	B	継続している役場や事業団体との連携した行事だけではなく、さらに地域住民や保護者の関心や協力を呼び起こすために、職員の負担が少ない行事や授業への地域住民や保護者の参加を展開していく。家庭と学校にとって、負担の少ない持続可能なPTA活動を目指し、業務改善を継続していく。	
VI 教育デジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑯デジタルツールを積極的に活用した授業に生徒の90%以上が満足している。	・デジタルツールを効果的に活用できる研修を実施する。	B	A	B	年度のまとめと振り返りができなかった。次年度から、生徒が自ら学んでいく個別最適化した学びを後押しするため、1学期インプット、2学期アウトプット、3学期にまとめと振り返りをおこない、情報活用能力と情報リテラシーの向上を図っていく。	パソコン、教科書、ノート、プリントと机上が手狭になってしまっている部分もあるので工夫が必要である。
		11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	⑰通知やアンケートのデジタル化に、生徒・保護者の90%以上が満足している。	・Googleクラスルーム、GoogleFormや保護者へのメール連絡を継続して積極的に活用する。 ・対応できない保護者に対するフォローを丁寧におこなう。	A	A	A	